

成田市教育委員会会議定例会会議録【会議概要】

平成27年7月成田市教育委員会会議定例会

期日 平成27年7月23日(木) 開会：午後2時 閉会：午後3時47分

会場 成田市役所5階503会議室

出席委員

委員長	小川 新太郎	委員長職務代理者	高木 久美子
委員	福田 理絵	委員	佐藤 勲
教育長	関川 義雄		

出席職員

教育総務部長	伊藤 和信	生涯学習部長	藤崎 祐司
学務課長	江邨 一男	教育指導課長	大竹 誠司
学校給食センター所長	後藤 文郎	生涯学習課長	秋山 雅和
生涯スポーツ課長	大矢 知良	公民館長	小川 浩
図書館長	須賀澤 賢治	生涯学習課副参事	木川 邦夫
教育総務課課長補佐(書記)	鈴木 浩和		

傍聴人：0人

【会議概要】

1. 委員長開会宣言

2. 教育長報告

主催事業等

○6月28日 学校教育振興基本計画策定に係るワークショップについて

6月28日は西中、公津の杜中の各中学校区、7月5日は大栄中学校区でそれぞれワークショップを開催した。ワークショップは全10回開催したが、それぞれ開催地の特色がよく出た結果になったと思われる。これらのワークショップで話し合われた内容についてはこの後担当か

ら報告があるが、これからの学校教育と言う視点よりもむしろ、現状の課題や要望等が多く出されたという印象である。話し合いの中で出された内容で気になったのは、学校給食に対する意見や、小中一貫教育に対する考え方である。多くは内容理解が不十分によるものとは思うが、一つの印象的な出来事から推測して、固定的な考えに陥っているところが見受けられ、各学校や教育委員会は、もっとわかりやすく確かな情報を知らせていくことが必要だと、改めて感じた次第である。

○6月30日 平成27年度第1回成田市総合教育会議について

新教育委員会制度になってから初めての総合教育会議だったが、全委員が出席されているので、特に報告の必要は無いと思うが、私自身、公式の場で各委員の教育に対する思いを伺ったのはこれが初めてであり、大変意義のある会議であった。それぞれの委員の思いを汲み、事務局としてさらに気持ちを引き締めていかななくてはならないと感じた次第である。

○7月4日 成田市文化芸術センター開館式について

全委員にご出席いただいた。当日はニューフィルハーモニーオーケストラ千葉のアンサンブル演奏もあり、多くのご来場者にこの施設の持つポテンシャルをご理解いただけたのではないかと思う。意外だったのは、ホワイエでアンサンブル演奏を聴いたときのこと、予想以上に音の響きが良く、演奏された方々も大変気持ちよく演奏できたとおっしゃっていた。同日、スカイタウンギャラリーで人間国宝美術館展が開催されたが、ここにも素晴らしい作品が数多く展示され、参観者の驚きの声が聞かれた。こんな素晴らしい展示なら、もっと多くの方に見てほしいと思うと同時に、短期間でここまでやってくれた担当職員、協力してくれた職員の労をねぎらいたい。今後も多くの方に利用され、親しまれるホールであり、ギャラリーであってほしいと心から願っている。

○7月7日 「ポスターでたどる 成田祇園祭今昔物語」について

7月に開館したスカイタウン内で、成田祇園祭に合わせ、スカイタウンホールのホワイエ等を利用し祇園祭のポスターと祭り半纏、提灯などを展示する会があった。ご覧になった委員さんもいらっしゃるかと思うが、展示されたポスターや写真などで長い歴史を刻んできたその一端を垣間見ることができたのではないか。

○7月7日 平成27年度第1回成田市公民館運営審議会について

今回の議事内容は、「昨年度の公民館主催事業報告並びに今年度主催事業の進捗状況について」、「公民館まつりの開催場所等について」の2議案について審議していただいた。また、議事終了後に、昨年度実施した公民館の主要工事等の報告と今年度実施予定の公民館主要工事等の進捗状況について報告させていただいた。昨年同時期に開催したこの審議会では、意見や質

問も多く、審議も比較的、長時間にわたったが、今回も昨年同様にたくさんの意見や要望があった。特に、公民館まつりの開催場所については、今年度も中央公民館が適当だという意見が圧倒的だったが、駐車場の件が話題になると、十分であるという意見と、入り口で待たされる、もしくは最初から混んでいるとあきらめてしまって参加を見合わせるという意見に分かれ、最終的にはもっと駐車場の案内をしっかりとやるべきだとの要望になってしまった。中央公民館だけの開催から、下総や大栄の公民館など、場所を変えての開催について、もっと各委員に議論していただきたいと思っていたが、中央公民館での開催にこだわった内容となってしまった。

○7月15日 平成27年度第1回視聴覚ライブラリー運営委員会について

今年度第1回目の運営委員会を開催した。今年度は全委員が新たに2年の任期で委嘱させていただくことになった。新委員長には公津の杜中学校の高梨哲夫校長が、副委員長には加良部小学校の神崎諭校長が選任された。議事内容は、昨年度事業報告と予算の執行状況の報告、そして、今年度事業計画と予算についての4議案だったが、今年度は戦後70年特集として、夏休みに平和映画4本の上映を行うこと、昨年の委員会で指摘のあった、映画会の平日開催について、試験的に9月に2日間実施すること、などを提案した。委員からは、せっかく平日開催するのだから、誰を対象に行うか考え、できれば、子どもが学校に行っている時間帯、午前中に行うとか、平日も同じ曜日に行うのではなく、曜日を変えて実施するなどの配慮がほしい、などの意見や、戦後70年という節目の年に平和映画、というように、毎年テーマを掲げて映画上映をする等視聴覚ライブラリーとして、市民に何を伝えたいのか明確にしていくべきではないか、とのご指摘をいただいた。もっともな話であるので、今後そのような姿勢で取り組んでいきたい。

○7月17日 平成27年度第1回成田市文化財審議委員会について

本年度第1回目の審議委員会を開催した。内容は今年度の文化財関連事業とその予算について、本年3月から6月までの埋蔵文化財の照会状況について、昨年度の発掘調査について、また、その他として、印旛郡市文化財センターが発掘調査を行った大竹上福田4号墳から出土した埴輪について報告した。委員からは、この大竹上福田4号墳から出土した埴輪について、その中に力士の人物埴輪が含まれていたことから、これは大変珍しいものであり、この発掘を今後さらに続けていけば、さらなる人物埴輪などが出土する可能性が高い。市は、開発があるまで発掘調査をしないが、単独で発掘調査をするくらいの気持ちがあってもいいのではないかと。成田は芝山以上の埴輪が出土する非常に文化的価値の高い地域なのだから是非積極的に取り組んで欲しいとの強い要望を受けた。

○7月18日 明治大学・成田社会人大学3課程合同特別研修について

明治大学・成田社会人大学の受講者を対象にしたフィールドワークで、3課程合同の特別研修として、直接明治大学に行って学べるというもの。今年度は大学の都合で実施時期がおおよそ2ヶ月前倒しされ、7月の実施となった。今回の参加者は165名。大型バス4台で明治大学へ向かった。明治大学では午後からの講演だったので、それまでの間は自由に大学を見て回ったり、学食で昼食を食べてもらったり、学生気分を味わっていただいた。午後の講演は、文学部兼任講師の水谷類先生の「成田のナリタチー江戸のグローカリズムー」と題して90分間、お話を伺うことができた。水谷先生はこの話をするためにご自身で成田のお祭りがあった日においでになり、祭りに関わる様々な場所を歩いて回られ、本当によく調べてこられた。ご自身が言っておられたが、成田の人に成田のお話をするのだから、それはそれは大変であると。また、お話の中では、祭りができること自体がステータスなのだとおっしゃっておられたが、祭りで山車を引くには、道路が整備されていなければならない。道路整備ができていたということも、大事な要素なんだと。

その他、成田山には御本堂が何棟も残っていて、これは珍しいことだというお話もあった。その本堂には、明暦元年と元禄14年の棟札が残されていて、この棟札から成田の歴史が見えてくるとのお話もとても興味深く伺うことができた。

水谷先生の講演は、どうして普通の田舎町の成田に、毎年正月300万人を超える全国第2位の初詣客が集まるのか。その秘密は、という始まりだったが、お話を伺ううちに、謎が解けてくるように感じられ、あっという間に時間が来てしまった感がある。

講演の後はリバティータワー23階にあるホールで明治大学のスタッフと共に懇親会を行ったが、福宮学長、藤江副学長も参加してくださり、これまでにないおもてなしに感激した。

市議会

○7月1日 平成27年6月議会最終日について

6月議会で提案のあったすべての議案について全会一致もしくは賛成多数で議決をいただいた。なお、この日、新たに追加された議案、これは副市長の選任について議会の同意を求める案であったが、共産党の2名を除く全議員の賛成を得て可決され、藤田礼子前副市長の後任として、吉田昭二氏が選任され、6月議会が閉会となった。

新たに選任された吉田昭二氏は、藤田前副市長と同様、国土交通省からで、昭和45年生まれ45歳。平成25年7月からこの7月まで東北運輸局企画観光部長を務めておられた方。平成13年4月には、国土交通省航空局飛行場部新東京国際空港課課長補佐、翌平成14年9月には同じく同整備推進調整官、平成16年4月には成田国際空港課整備推進調整官等を歴任

するなど、成田空港整備に関わった方である。また、平成18年から3年間、外務省在スペイン日本国大使館一等書記官なども経験された。

その他

○6月29日 平成27年度千葉県教育庁北総教育事務所指導室訪問について

神宮寺小学校で北総教育事務所指導室による学校訪問を受けた。

神宮寺小は昨年度末人事異動で大幅な入れ替えがあり、全11学級中4学級の担任が新しく着任した教員である。教頭も、教務主任も変わり、学校運営が厳しくなることが予測されたが、校長を先頭に目標を明確にし、しっかりと取り組んでいた。特に若い教員の活躍が目立っていて、学校を支えている様子が感じられた。ただ、若いだけに、ひとたび何か問題が生じるとその対応に苦慮することも考えられる。学校が教育委員会と連携を密にして今後も良い学校運営ができるように支えていきたい。

○6月29日 姉妹都市アメリカ・サンブルーノ市中学生訪問団表敬訪問について

今年もサンブルーノ市から10名の中学生がやってきた。皆、中学2年生ということだったが、どの子も明るいさわやかな子ばかりであった。昨年もそうだったが、日本の文化に大変強い関心があり、古い建物や食文化にも触れたいという思いを語っていた。同日夕方から開かれた歓迎夕食会では、迎える側の成田市の中学生たちも参加し、和やかで楽しい一時を過ごすことができた。市の中学生たちはこの春サンブルーノを訪れた子達で、互いにすぐに打ち解けて楽しんでいる様子が伺えた。今回来日したサンブルーノ市中学生10人の内、3人は兄や姉がこの交流に参加したということから、自分も同じような経験をしたいという思いがあったということである。今回は祇園祭と日程が合わずに祭りに参加はできないし、あいにくの雨が降り続け、ちょっとかわいそうであった、それぞれ思い思いに日本での滞在を楽しんで、7月5日に帰国した。

○7月 1日 平成27年度千葉県都市教育長協議会全体会・分科会について

午後から千葉市のポートプラザで都市教育長協議会があった。ちょうど地方議会が開かれている時でもあり、欠席者もあったが、予定通り実施した。今回は各都市教育委員会から出された要望書について、教育行財政2部門、学校教育、生涯学習の4部門に分かれて要望書提出前の最終確認と協議を行った。私は教育行財政部門に参加した。昨年度要望に加えて、新たな要望についても協議した。要望してもかなえられるケースは少ないが、引き続き要望することで、教育委員会からの強いメッセージを発信していくことが大切だと考える。協議終了後、県教委幹部との情報交換会に参加した。

○7月1日 社会を明るくする運動成田市キャンペーンについて

朝7時30分から関係14団体によるキャンペーン運動を展開した。JRと京成成田駅付近で、通勤通学者に対して、明るい社会づくりへの理解と呼びかけを行うとともに、ポケットティッシュを配布した。当日は雨模様で、駅を通過する方々は両手にバッグと傘を持っていたため、ティッシュ配りも少し気が引ける状況であったが、予定していた数は全て配布できた。

○7月5日 成田空港周辺地域スポーツ大会（小学生サッカーの部）について

成田国際空港振興協会が主催し、実施している成田空港周辺地域のスポーツ大会の一つである、小学生サッカー大会の開会式に参列した。ちょうど、女子サッカーワールドカップがカナダで行われていたこともあり、多くの方がサッカーに注目していた時期でもあった。当日はあいにくの雨。開催が心配されたが、サッカーは天候に関係なく行われるとのことで、小学生大会であっても同じように行うという姿勢であった。かつて自分が小学校の体育主任だった時、運動会終了まであと2、3種目という場面で、雨が降り始め、運動会は途中だが、ここで終了しようと言う校長に対し、せっかくここまでやってきたのだから、あと少し、最後まで続けてほしいとお願いしたが受け入れられず、途中中止にしたことがあった。サッカー大会だとそんな提案をしなくても試合続行は当然といった雰囲気には驚くと同時に、たくましくも感じた次第である。雨で濡れた身体のケアが心配だったが、きっと上手にやってくれたものと思う。なお、今大会には周辺市町から24チーム、380名の選手が参加していた。

○7月6日 叙位・叙勲の伝達について

合併直前の大栄町の元教育長、渡邊清氏がお亡くなりになり、国から叙位・叙勲をいただいた。その品をお渡しするため、ご自宅を訪問した。故渡邊清氏は、昭和7年9月生まれ。昭和27年2月、大須賀小学校助教諭で教員生活が始まり、以後長く大栄町小学校教諭を努められ、38歳で神崎町米沢小教頭に昇任した後は、大須賀小、津富浦小の教頭を経て昭和62年、多古町の久賀小学校校長に昇任、さらに平成元年には前林小学校の校長を歴任し、平成5年3月に定年退職された。その後、平成9年1月から大栄町教育委員、平成13年9月には教育長に就任され、成田市との合併の年まで務められた。そのご功績に対し敬意を表するとともに、ご冥福をお祈りしたい。

○7月8日 東総地方教育委員会連絡協議会「下総みどり学園」視察について

下総みどり学園において、銚子市、旭市、匝瑳市の各教育委員で構成する東総地方教育委員会連絡協議会の視察訪問を受けた。

はじめに、校舎内を視察していただいたが、皆さん大変熱心に見学し、担当にたくさんの質問を投げかけていた。やはり、北総地区で初めての小中一貫教育校としてのインパクトは強く、

相当な関心の高さを感じさせられた。その後の説明会では、開校して1年3ヶ月が過ぎ、明らかになってきた学校の成果と課題について高山校長からおよそ1時間に及ぶ丁寧な説明をしていただいた。参加された方々は、皆教育委員さんであり、それぞれ素晴らしい識見とお考えを持った方々である。それぞれ地元で抱える教育課題があり、それらの解決にこの日の小中一貫教育校の実践が役立つことを願いたい。

○7月9日 大栄幼稚園PTA期末会議及び大須賀・桜田小学校合同家庭教育学級における大栄地区小学校統合の説明について

大栄幼稚園での説明では、幼稚園児のほぼ全家庭の保護者の方々が参加されていたと思うが、教育委員会からの説明にはほとんど質問がなく、冷静に話を聞いている、と言う状況だった。話の中心が統合され、小中一体型校舎をつくるということであったため、まだあまり実感がわからないのかもしれないが、この子たちが中学生になるころにはすでに新しい校舎で学んでいるとの説明と、完成予想図に期待を持って見守っておられるという印象を受けた。

一方、下総みどり学園では、家庭教育学級の一貫として参加されている方々だけだったので、ほぼ全員が1年生の保護者であり、ただただ、下総みどり学園の新設校舎に驚いているといった印象だった。質問はほとんど出なかったが、それは小中一貫教育というものがまだあまりよく理解できていないからだと思われる。今後も何度かこうした機会を得て保護者の皆様にも新しくできる学校に興味関心を持っていただき、そこで実践する教育をみんなでつくりあげていこうとする気持ちを持てるようになってもらいたいと願っている。

○7月10日 平成27年度第2回教科用図書採択地区協議会について

小川委員長と共に参加した第2回目となる教科用図書採択地区協議会では、来年度から中学生が使用する教科用図書と、特別支援学級の児童生徒が使用する、いわゆる附則9条本の選定を行った。選定の方法は専門調査員が調査結果を報告し、そのことに関する質疑の後、それぞれ委員の意見を出し合い、最終的に投票で1社の教科用図書を選定するというものである。

○7月14日 「小さな親切」運動成田支部平成27年度総会について

成田公民館で開催した。「小さな親切」運動が始まったのは昭和38年からとのことで、今年で52年目。息の長い運動である。どんなことでもいい、街角で出会った人へのほんの些細な気遣いや思いやり、そうした小さな親切が広がれば、きっと明るい社会になっていく。基本的な精神はそのままに今日まで続いている。この日は各学校や団体から推薦のあった「小さな親切」を実践してくれた方々や団体に、実行賞が伝達された。子どもたちで参加したのは会場の近くの学校と言うことで、成田小学校と成田高校附属小学校だけだったが、市内12校から推薦された子どもたちに実行賞が贈られた。最初から最後までほのぼのとした気持ちが伝わる会

であった。

○7月14日 藤田副市長退任式について

平成24年から3年間務められた藤田副市長の退任式があった。カーフューの弾力的運用、LCCの就航や国家戦略特区等、難題に向かって実績を積み上げられてこられた方だったが副市長となられて3年が経過し、再び国土交通省に戻られることとなった。せっかくできた絆なので今後も成田市との関わりを持ち、何かとご支援をいただければありがたい。今後のご活躍に期待したい。

○7月15日 吉田副市長就任式について

藤田副市長の後任として吉田昭二副市長が就任された。吉田副市長は藤田前副市長と同じ国土交通省からお見えになった方だが、大変気さくな方で誰とでもすぐに親しくお話しできそうな方、と言う印象である。ご出身は山形県だというが、これまで仙台で仕事をなさっていたため、成田市に着任早々、真夏の暑さに驚いておられた。

○7月16日 平成27年度新勝寺・成田市懇談会について

成田市と新勝寺との懇談会で、毎年相互に開催している。今年は新勝寺での開催となった。互いの今年度の主要事業や今後予定される大型事業等について報告し、質疑を行う会である。成田市側は市長、副市長、そして私と企画政策、経済、土木、都市、生涯学習の各部長、秘書課長、観光プロモーション、企画政策の各課長が、新勝寺側は、寺務長、法務、教化、庶務の各部長、財団事務局総務課長、庶務、管財、人事、企画調整等の各課長さん方が出席された。いわば、双方の事業部署の責任者が集って意見交換をする場である。新勝寺からは成田山開基1080年祭記念事業を中心に報告があり、成田市からは、国家戦略特区の進捗状況と今後の見込み、駅前及び参道整備計画、世界少年野球大会、世界陸上選手権大会に出場するアメリカ選手団の直前合宿等について報告した。成田市側の報告に対し、特に新勝寺からは、これは昨年度も要望を受けたことだが、外国人向けの案内看板の設置を充実させてほしいなどの要望があげられた。

○7月17日 第2回成田市総合計画策定委員会について

庁内各部の今後の事業計画など、ローリングにかけてきた内容についてそれぞれ担当部長から説明があった。教育委員会では、教育総務部から大栄地区統合小学校建設事業、学校給食施設整備事業を、また、生涯学習部からは、成田市文化芸術センター運営事業、スポーツ広場等整備事業の、計5事業を提案した。今回の策定委員会は、時間の関係で質疑等は省略し、報告だけの会となった。今回提案された各部からの事業に対し、その実施のための予算については、別途、財政との協議になる。

○7月21日 平成27年度第2回印教連常任委員会・教育長会議について

成田市で開催した。内容は、印教連の研修視察について、教育功労表彰について、さらに次年度以降の事務局業務分担について話し合った。まず、印教連の視察だが、今年度は八街市が担当となり、各市町教育委員会からの要望も踏まえて、千葉県立一宮商業高校と、大原中学校の視察を行うことになった。一宮商業では商業と情報の授業参観、大原中学校でも授業参観を行うが、ここは不登校対策で効果を上げている学校だということである。本市ではアクティブラーニングの研究に取り組む学校として我孫子第一小を希望していたが、事務局一任の市町も多く、結果的に担当市である八街市が決めることになった。視察予定は11月20日（金）である。予定に入れておいていただきたい。

教育長会議では藤井北総教育事務所管理課長が出席され、北総管内、印旛管内の教職員の状況等について細かく説明された。それによると、今年度も含め、5年以内に北総管内ほぼ全ての学校の校長が交代することになる。それに伴い、若い教員が増えているので、人材育成が急務だという話をされた。また、年代別では30代後半から40代前半の教職員の数が非常に少なく、近いうちに30代の管理職も登場することになるとの見解であった。いずれにしても本市においてもこの傾向は同じことなので、教育委員会でも人材育成に確かな方策を講じていくとともに、長期的視野に立って教職員配置を見直していく必要があると感じた。

《教育長報告に対する主な質疑》

委員：学務課の先生方と何校かの学校訪問に同行した。各学校の特色を活かす取り組みが行われており、それぞれの学校に特色があるというのは、非常にいいことだと思う。沢山の学校を見た中で、一例では校長先生から今年は「読み」に力を入れていくという話があった。「読み」というのは「読解力」のことだと思うが、読書は心を豊かにすることにつながるが、ただ読むだけでは読解力は上がらない。例えば読書感想文を書く等が必要だと思う。いろいろな学校がそれぞれの目標を掲げており、それは知・徳・体を押さえているとは思いますが、教育委員会としては、授業において力を入れて欲しいところがどこか、また、例えば子どもたちの学力向上にあたっては、こうした取り組みをしてほしい等の働きかけをどのように行っているのか。また、こうした中で、学校ごとにどの部分が弱い等が見えてくるのではないかと思うが、教育委員会としてはどのように学校を指導しているのか。

関川教育長：学力向上ということであると、全国学力状況調査の結果を分析し、その学校のどこかというところが良くて、どういうところが落ち込んでいるので、どういうところに力を入れていく必要があるのか、こうした点について教育指導課より、資料を揃えて学校の指導を行っている。詳細について教育指導課長より説明する。

大竹教育指導課長：文部科学省の行う全国学力状況調査については抽出学年になるので、本市では、小学校1年生から中学校2年生まで一斉に各年度に学力調査を実施している。平成26年度からは、新たに選定した業者に委託をしているが、一番ポイントにしたのが、それぞれがテストを終えた後に振り返りができるような内容のものであること。それまでのテストについては、問題を子どもたちに返すことができなかった。現在はテストを終えてどの教科のどの部分で正答にたどり着けなかったのかといった結果が返る。また、学校としては、例えば3年1組は算数のこの部分の理解度、定着率が低い等といったことが振り返りでわかるような分析結果が提供されるようになっている。1月にテストを実施して2月には結果を返したので、それを基にして、各学校で取り上げるべきところはどこかということを分析し、それを翌年度の計画に引き継いで年度を終えるようお願いしている。また、学校により、状況が異なるが、こういう取り組みをしたところ、こういう結果がでたという事例を冊子にまとめ、指導主事が学校訪問の際に情報提供を行っている。

委員：校長先生が変わると、取り組み方針が大きく変わることはあるか。

大竹教育指導課長：平成26年度に実施した学力調査については、学力向上の視点での教科毎の取り組みについては、次年度に引き継ぐよう学校をお願いしている。ただし、個別の教科ではなく、例えば先ほどの読みについては国語の読解力を指しているものだと思うが、学校によって年度毎に決めているものもある。

委員：私も学校訪問に参加させていただいた。学務課長、副参事ともに学校に対する対応において一緒に問題を解決していこうという姿勢であり、好印象を受けた。こうした中で、どの学校においてもモラルアップ委員会を立ち上げ取り組んでいるが、いくら頑張っても問題が一つでも出てしまっただけでは何もなくなってしまわないように、問題が出ないように願いたい。また、必ず出退勤時間について聞いていたが、先生方は

遅くまで学校に残っている方が一生懸命であるという誤解がどこかにあるのではないか。帰れるときには早く帰って、気持ちにゆとり持つというのが何より大事ではないか。授業については、教える能力というのは高まっていると感じた。先生方は若手もベテランも皆さん研修を積んで頑張っていると感じた。いろいろな問題はあると思うが、学校全体が校長先生を中心にチームとしていい雰囲気が進んでいければ不祥事も起きないと思う。

また、これは特に小規模校であるが、人事異動により校長先生からは、あの先生が異動してしまうとその後が大変であるという話を聞くことがある。教育委員会でも人事については抜けた穴を適切に埋められるような配慮をお願いしたい。

委員：公津の杜中と本城小の給食共同調理場では、公津の杜中の給食は美味しくて、本城小の給食は美味しくないという噂があると聞いた。実際に試食させていただいたところ、とても美味しかった。多分子どもが好きなメニューを出しているか出していないかにもよるし、これから共同調理場を増やしていく中では、こういった噂も立ちやすくなると思う。このためにも栄養士同士の情報交換も必要だと思うし、また、ある程度メニューを揃えたら、こういうことにもならないのではないかと思う。その噂では、公津の杜中の調理場では洋食系が多いということであった。子どもたちは洋食の方が好きなので、そうした噂につながるのではないか。作る人によって味は違ってくるが、栄養士の方々も忙しいと思うが、試食しあってみる等の工夫をして、不公平がないようにしていただきたい。

伊藤教育総務部長：中学校区毎に開催したワークショップでも学校給食についての噂はお聞きした。ただし、教育委員会では決してそういうことはないと思っているので、誤解を解いていきたいと考えて努力している。学校給食センターからはこの後、給食費の値上げの関係で協議をさせていただくが、給食のメニューについては各調理場において公開をしている。また、栄養士と意見交換の機会も設けており、いろいろと意見を聞いていきたい。

委員：栄養士の方の要望を聞いていただくのも大事だと思う。

後藤学校給食センター所長：市内の各調理場のメニューをホームページにおいて写真付きで公

表しているので、時間があれば見ていただきたい。

関川教育長：見ていただければおわかりになると思うが、洋食、和食というほどの違いはない。

委員長：そういう噂が出たならば、自分の調理場ではもっと美味しいものを作ろうという気持ちを持っていただきたい。

私は学校訪問で7月6日に公津の杜小学校、7月9日に成田中学校に行った。公津の杜小は生徒数も増え、先生方も多いので、教育委員会としてもきちんとした指導をしていかないと学力向上にはつながっていかないと思う。そういったことから管理職の指導力が問われる。成田中については心配していたところもあったが、落ち着いて授業を受けており、3年生は進路に向けて頑張っており、1、2年生については生徒指導面で前向きな学校生活を送って欲しい。

また、学力向上で一番問題なのは、学力テストをやって分析まで業者がやっている中で、それを学校がどのように活かすかということだ。低い部分が明らかになったら、そこを改善するため、次の段階として計画を立てると思うが、その計画を実行に移すことが大事である。学力テストの分析結果を受け、学校、学年、クラスの課題を踏まえて、先生方の共通認識を持つことが重要であり、それが学校の雰囲気にもつながっていく。

成田市文化芸術センターの開館式にも出席したが、大変すばらしいホールであった。何とか成田市の文化芸術のレベルが上がり、日常の中に文化芸術のある、そういった市であって欲しい。

委員：学校訪問で平成小学校に行った際に、搬入口に牛乳があった。そして、帰るときにもまだあった。牛乳は届いた時点で検収し表面温度を測り、すぐに冷蔵庫に入れるのが鉄則だと思う。当日の気候は曇りではあったが、あってはならないことではないか。

後藤学校給食センター所長：確認したい。

(議案第1号及び議案第2号は成田市教育委員会会議規則により非公開とする議決)

<これより非公開>

議案第1号 平成28年度使用教科用図書の採択について

《審議結果》

可 決

議案第2号 成田市心身障害児教育支援委員会委員の委嘱について

《審議結果》

承 認

<非公開を解く>

(2) 報告事項

報告第1号 成田市学校教育振興基本計画策定に係るワークショップの開催結果等について

【鈴木教育総務課課長補佐 資料に基づき説明】

(要旨)

成田市学校教育振興基本計画策定に係るワークショップが、7月5日の大栄中学校区を最後に、市内10中学校区で終了し、参加者数やアンケート結果をまとめたので報告する。

また、7月28日に第1回目の「成田市学校教育振興基本計画策定委員会」の開催にあたり、委員の選任についてもあわせてご報告する。

今回のワークショップは、中学校区ごとの開催であり、学校数の違いから、その参加者数は、下総中学校区の16名から、大栄中学校区の45名までと、それぞれであるが、最終的な参加者の合計では277名となっている。参加者は、これまでも説明したとおり、児童生徒・教職員・保護者、そして主任児童委員・地区青少年健全育成協議会・学校評議員の方々である。

参加者のアンケートの集計結果では、「ワークショップの内容はいかがでしたか」については、「大変良かった」が50.4%、「良かった」が49.6%と、悪いという意見は1件もなかった。

また、問4の「今後もこのようなイベントに参加したいか」については、90%以上が、「ぜひ参加したい」「都合がつけば参加したい」と回答している。

ここには添付はないが、自由記述の意見にも、「いろいろな立場の方の意見を聞くことができ
て良かった」、「他の学校の人の意見を聴くことができ良かった」など、「参考になった」、「
いい機会であった」、「今後も続けて欲しい」というような肯定的な意見を多数いただいた。教
育委員会としては、当初開催にあたって、大人の中で子どもが委縮してしまうのではないか、
教職員が子どもたちや保護者の中で意見がいいにくいのではないかという懸念もあったが、表
立った問題はなかった。また、この話し合いの内容を、きちんと計画策定に活かして欲しいと
いう意見もいただいたが、こちらでもそれを目的に開催していることから、現在進めている策
定作業においてこれを踏まえていきたいと考えている。

なお、内容については、成田市の教育についてというよりも、現状における課題や要望が多
く出されたということは否めないが、このワークショップの開催は「地域の交流の活性化に向
けた機会をつくる」ということもねらいの一つとしており、児童・生徒から大人まで、地域の
幅広い年齢層の方々に参加いただき、一定の効果を上げることができたものと考えている。こ
のワークショップについては、今回は簡単な集計の報告となるが、今後、報告書として取りま
とめが済んだら、あらためて報告したい。

次に、本年度設置した「学校教育振興基本計画策定委員会」について報告する。本委員会は、
計画策定にあたり、さまざまな見地から意見をいただくことを目的に設置した。委員構成は、「学
校教育長期ビジョン」策定時の策定懇談会に準じている。設置要綱第3条で、委員を10人以
内とし、「識見を有する者」「学校教育関係者」「各種団体等関係者」「その他教育委員会が必要
と認める者」の区分で委嘱することを定めている。委員構成については、識見を有する者とし
て「明石要一、千葉敬愛短期大学学長」「太田洋、東京家政大学人文学部英語コミュニケーション
学科教授」、明石委員については、平成12年度の「学校教育長期ビジョン策定懇談会」にお
いても委員をお務めいただいた。次に、学校教育関係者として「櫻崎弘美、成田市立大栄幼稚
園園長」、そして、成田市校長会から推薦があった小中学校の校長先生で「渡邊直行、公津の杜
小学校校長」「渡邊邦明、大栄中学校校長」、そして成田警察署管内学校警察連絡委員会から推
薦があった市内の高校の校長先生で「渡邊信治、成田国際高等学校校長」である。次に、各種
団体等関係者として「桑村雄一、成田市PTA連絡協議会会長」「渡邊昌美、成田市青少年育成
市民会議会長」最後に、その他教育委員会が必要と認める者として「寺内章喜、成田市学区審
議会委員長」「野村豊、成田市教育事務点検評価委員」である。

委員会では、本年度3回の会議を予定しており、今月28日に第1回を開催した後は、第2
回会議を10月頃、第3回会議を2月頃に開催する予定である。

《報告第1号に関する主な質疑》

委員：PTA連絡協議会会長や青少年育成市民会議会長を選任するというのは、宛て職で決まっているものか。

鈴木教育総務課課長補佐：学校教育長期ビジョン策定懇談会の委員構成の例にならい、今回もお願いした。要綱上は、各種団体等関係者という表記しかないので、こうした団体を明確に規定しているものではない。

委員：PTA連絡協議会や青少年育成市民会議の会長だから選任したということかもしれないが、学校教育振興基本計画策定委員会といった大事な組織の委員なので、宛て職ということではなく人物本位で選んではどうかというのが個人的な意見である。

関川教育長：PTA連絡協議会桑村会長、青少年育成市民会議の渡邊会長、お二人とも職で選んでも、人物で選んでも申し分のない方である。

委員：了解した。

報告第2号 成田国際文化会館に係る指定管理者の選定手続きについて

【秋山生涯学習課長 資料に基づき説明】

(要旨)

成田国際文化会館については、平成24年4月1日から4年間、株式会社ケイミックスを指定管理者として指定しているが、平成28年3月31日で指定管理期間が満了となる。

については、成田市公の施設に係る指定管理者の指定の手續等に関する条例第2条において、「指定管理者に施設の管理を行わせようとするときは、当該施設に係る指定管理者の指定を受けようとする団体を公募するものとする」と規定されているので、成田国際文化会館に係る次期指定管理者を公募により選定することで進めたい。詳細については今後更に調整するが、公募にあたっては、スケジュールに示したように進めたい。今後の主な予定として、8月中旬に募集要項配付、募集の開始となる。具体的には広報なりたやホームページ等でお知らせし、その後書類受付、書類審査を行い、10月中旬に生涯学習部長を部会長とする専門部会を開催し、

検討の上で、10月下旬の教育委員会会議に提案させていただき選定委員会等の手続きを経て12月議会で議決をいただき決定していきたいと考えている。

報告第3号 市体育施設に係る指定管理者の選定手続きについて

【大矢生涯スポーツ課長 資料に基づき報告】

(要旨)

現在、市体育施設の中台運動公園外8施設については、公募での選定により、平成24年4月1日から4年間、公益財団法人成田市スポーツ・みどり振興財団を指定管理者として指定しているが、平成28年3月31日で指定管理期間が終了する。平成28年4月以降の指定管理者の選定についても、引き続き公募により選定することとして進めたいと考えている。公募については、中台運動公園、大谷津運動公園、久住体育館、久住テニスコートを1つのグループとし、大栄野球場、大栄B&G海洋センター、大栄テニスコート、大栄運動場、久茂富第一公園テニスコートをもう1つグループとして公募する予定である。また、公募スケジュールにつきましては、報告第2号と同様の日程を予定している。

《報告第3号に関する主な質疑》

委員長：大栄運動場と久茂富第一公園の所在はどこか。

大矢生涯スポーツ課長：大栄工業団地の中になる。以前は工業団地の中の職員の福利厚生施設であったが、数年前に市に移管された。大栄運動場は、B&G海洋センターの脇のグラウンドである。

(3) 協議事項

(協議事項は成田市教育委員会会議規則により非公開とする議決)

<これより非公開>

「学校給食費の改定について」

<非公開を解く>

(4) その他

委員：前林小学校に行ったときに、校長先生から9月に体育館の天井の板を剥がすというような話を聞いた。前林小学校の体育館は旧大栄町の学校の体育館では新しい方で雰囲気もいい。おそらく耐震上の問題からだとは思いますが、他に方法がないのか。老朽化した訳ではない新しい体育館だと思うが。

伊藤教育総務部長：国からは3. 1 1の関係で体育館の天井をはじめ、照明や放送設備、時計、バスケットゴール等落下の可能性があるものについては対策をとるよう通知を受けている。成田市においても、国の方針に基づく対策を講じており、新しく作った体育館でも天井があるものについてはこれを剥がして、躯体を露出させ照明については鎖を付ける等の対策をとっている。天井を残すためには莫大な費用がかかってしまうので、これを撤去し、落ちる可能性がある照明等については、補強していく。

4. 委員長閉会宣言